

まちの活性化拠点として整備



西脇病院

バス営業所

新庁舎建設予定地

「市役所・市民会館新築移転」をきっかけに西脇市を大きく変えていきます

市長からの手紙 ―西脇を元気に!!―



約4年半後（平成33年3月）までに、西脇市役所・市民会館を現在の郷瀬町から下戸田のカナー西脇跡地に新築移転します。

私はこの庁舎整備を起爆剤の一つとして「西脇市を大きく変えていく」という決意から、カナー跡地での整備を選択し、西脇市議会において賛同いただきました。

西脇市にはさまざまな課題があります。人口減少、少子高齢化、中心市街地の空洞化、経済の活性化、教育の充実など、早急に取り組まねばならないものばかりです。私は、中心市街地で庁舎整備を行うことにより、市街地の空洞化に歯止めをかけ、併せて市民文化交流施設や市民の憩いの空間を整備することで、新しい人の流れを生み出したいと考えています。また、人口減少社会や高齢化社会に対応していくため、公共交通ネットワークの拠点整備にも取り組んでいきたいと考えています。

昨年10月にオープンした茜が丘複合施設「みらいえ」は、

西脇市の西側の交流拠点として、多くの方が訪れる場所となっています。今回の市庁舎等の整備は、東側の交流拠点として、道路交通網等の整備も行い、にぎわいを創出することがねらいです。

新庁舎・市民文化交流施設の整備に当たりましては、さまざまな方法で情報提供いたしますとともに、市民の皆さんのご意見をしっかりとかがいながら事業を進めてまいります。ご理解とご協力をよろしく願います。

このまちに住んでいることを誇れる「西脇市」をともに創っていきましょう。

西脇市長 片山 家三



整備地を決定した経緯

現在の市庁舎および市民会館は昭和40年代に建築され、まもなく50年が経過します。老朽化が著しく進んでおり、平成25年度に両施設について耐震診断を実施したところ、耐震性能不足から震度6程度の地震で倒壊する恐れがあることが判明しました。

そこで市では、耐震補強による改修案と新築案について検討を進めました。その結果、一般的な建築物の寿命を60年とした場合、現市庁舎では約

10年しか使用できないことから、使用可能な期間1年間あたりの整備コストは、新築の場合よりも大きくなることが想定されました。また、耐震補強では市庁舎・市民会館が抱える課題の解決を図ることが難しいと考えられました。

これを受けて、市庁舎・市民会館を平成32年度までに一体的に建て替えることとし、平成26年度から具体的に検討を進めてきました。整備地は市民の利便性や災害時の安全性等を最優先の前提として、

①市街化区域内であること

②敷地面積が1・6ha（現在地と同等）以上であること

③平成29年度中に取得可能であること

などを条件に選定。これらに該当する現在地およびカナー西脇跡地の2カ所を候補地として検討を行ってきました。

この2カ所の候補地について、西脇市公共施設適正化検討委員会（委員長・関西学院大学長峯純一教授）の答申などを踏まえ、カナー西脇跡地が新庁舎等の整備地にふさわしいと判断し、庁舎等の位置を移転することとしました。

新庁舎等の整備地としてカナー西脇跡地を選んだ理由

①将来のまちづくりに適している = 右地図①

カナー西脇跡地は中心市街地に位置しており、西脇病院をはじめ、さまざまな都市機能を集積させることにより、コンパクトで利便性の高いまちづくりを進めることができます。



医療福祉ゾーンを形成する西脇病院

②公共交通等を生かすことができる = 右地図②

カナー西脇跡地に隣接するバス営業所を交通結節点として活用することで、市街地と各地区、都市部を結ぶ利便性の高い公共交通ネットワークを構築することが可能です。



コミュニティバス「しばざくら号」

③工事期間中、市民の利便性が損なわれない

現在地で建て替える場合は、工事期間中、庁舎の一部や市民会館が使用できなくなります。カナー西脇跡地の場合は、新庁舎等の整備完了後に、市役所機能を新庁舎へ移すため、市民の利便性を損なうことはありません。



④広い敷地を生かし自由度の高い設計ができる

現在地は敷地面積が約1.6haに対し、カナー西脇跡地は約2.2haの面積を有していることから、駐車場の集約や効率的で効果的な施設配置等が可能です。

■市庁舎の整備スケジュール

新庁舎等の整備スケジュールは、有利な財源である合併特例債（事業費の95パーセントに充当でき、国が返済の7割を負担する）の発行期限（平成32年度）を踏まえ、右表のように想定しています。

期間	H28	H29	H30	H31	H32年度
基本構想	→				
基本設計		→			
完成					→

平成28年度は基本構想を策定するほか、基本設計に着手し、平成32年度中の完成を目指します。整備に向けて市民説明会や市民向けワークショップ等の開催も予定しています。

限られた財源を有効活用して、庁舎を整備するんだね。



①市庁舎の整備場所を特に重視すること
 ▽道路など交通の利便性が良い
 ▽15・1% ▽ゆとりのある駐車スペースが確保できる
 ▽14・7% ▽用地買収や建設費などできるだけ財政負担を少なくする
 ▽12・5% (上位3つ)

②市民会館の在り方
 ▽時代に合った建物に建て替える
 ▽37・7% ▽耐震改修と

市庁舎等の整備に関するアンケート (平成28年1月実施)
 ■抽出方法等 無作為抽出2000名、回答数868名

①重要だと考える公共施設
 ▽市役所 89・9% ▽西脇病院 88・6% ▽学校園 58% ▽図書館 51% ▽市民会館 50% (上位5つ)

【市の考え方】
 市では、これまでに病院の改築、学校園等の耐震改修を進めてきました。市役所、市民会館を整備することで、市民の皆さんが特に重要と考え

る施設は、耐震性能がすべて確保されることとなります。
 ②市庁舎の耐震性能確保 (積極的に実施とどちらかといえば実施の合計)
 ▽地震に強い災害拠点として機能し、安全安心な行政サービスを提供できるようにする
 ▽82・6% ▽長期的なコストの有利性等を踏まえ庁舎を建て替える
 ▽65・8% ▽市庁舎

公共施設に関する市民アンケート (平成27年6月実施)
 ■抽出方法等 無作為抽出2000名、回答数762名

これまでに実施した市民アンケート結果

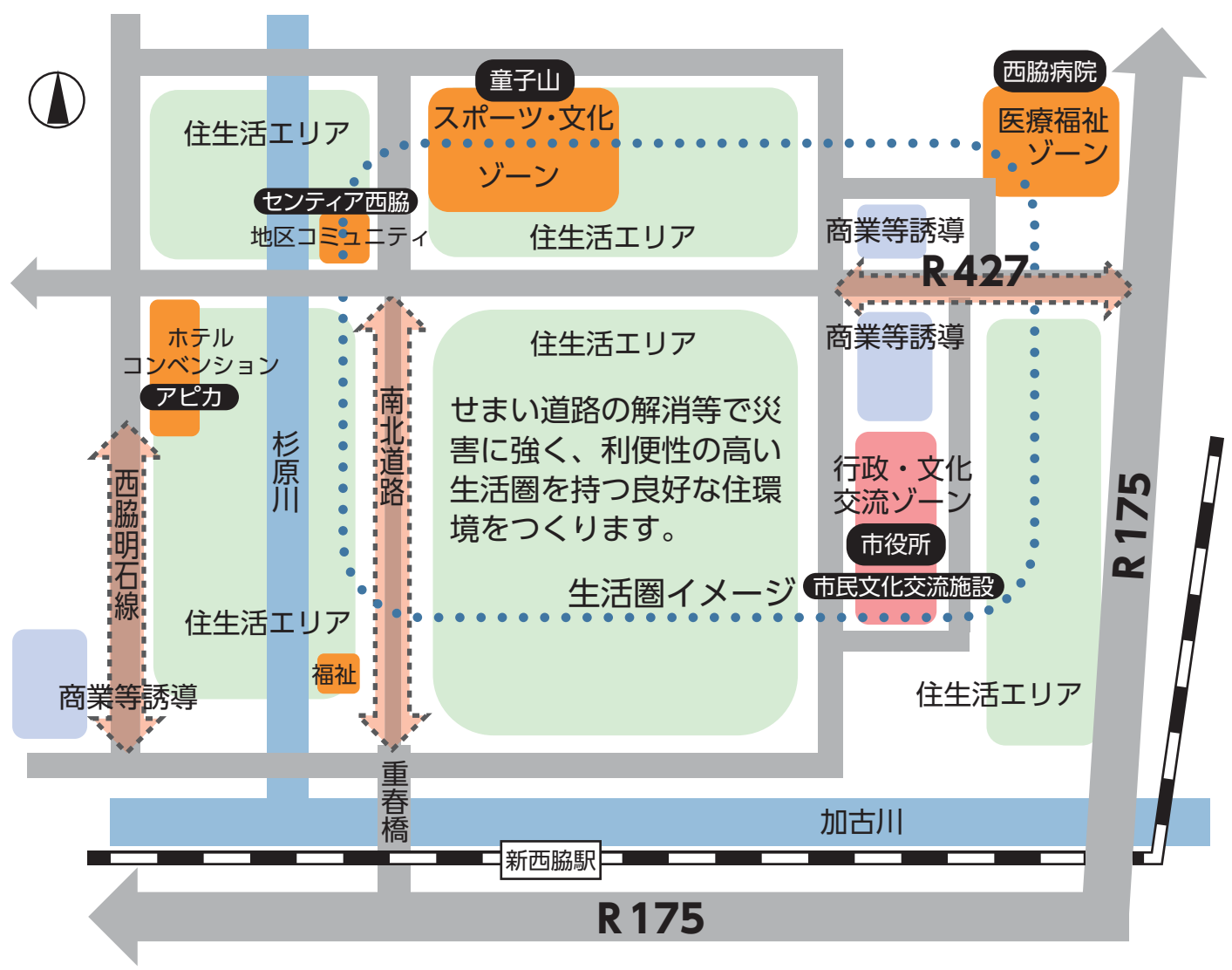
周辺施設についても庁舎と併せて再編整備する
 ▽69・1%
 【市の考え方】
 多くの方が地震に強い安全安心な庁舎を望まれており、庁舎整備に併せて市民会館等の周辺整備を行うべきとお考えです。市では、マナビータプラザや第2庁舎など庁舎周辺施設も統廃合等を進め、一体的に整備を行います。

アンケートの数字(%)は、回答いただいた方の割合を示しています。



建て替えて費用の少ない方
 ▽26・6% ▽現建物を保存し改修で対応する
 ▽10・4%
 【市の考え方】
 多様な用途に対応した4、500席程度のホールを有する施設を検討しています。将来の人口減少や利用状況に合わせ規模を縮小する計画としており、事業費や機能性等において現建物の改修と比較すると効果的・効率的な事業になると考えられます。

中心市街地再生のイメージ



目指すまちづくりの姿～将来にわたり、暮らしやすいまちへ～

- ・コンパクトな市街地に多様な都市機能を集積する。
- ・災害に強く、暮らしやすい良好な住環境を形成する。
- ・利便性の高い公共交通ネットワークを形成する。

まちづくりを進めるための具体的手法

- ・新庁舎・市民文化交流施設を市街地に整備し、行政・医療福祉・スポーツ・文化等の多様な都市機能を集約し利便性の高いエリアを形成する。
- ・南北東西軸の都市計画道路の整備、^{きょうあい}狭隘道路の解消等を計画的に推進し、道路交通を充実させる。
- ・バス交通の結節点を市街地(新庁舎等整備地および周辺)に立地させるとともに市内各地区等とのネットワークの充実を進める。

Q カナート西脇跡地での浸水対策はどうなっていますか？

カナート西脇跡地は敷地の南側2/3程度が0.5m未満の浸水想定区域内に位置しています(現在地は敷地すべてが0.5m未満の浸水想定区域)。平成16年豪雨災害では、カナート西脇跡地の周辺でも浸水が確認されました。一方で、現在では河川改修等が進み、浸水対策が進んでいます。市庁舎の建設に当たっては、災害に対して十分な備えを持ち、災害に強い施設となるよう整備していきます。

市役所は重要な防災拠点。安全で安心な市庁舎にして欲しいな。

Q 市庁舎等の事業費・整備の財源はどう確保しますか？

事業費は約59億円を予定しています。財源は、市庁舎等の更新整備のために積み立ててきた公共施設整備基金、財政調整基金を充てるほか、有利な財源である合併特例債を活用する予定です。また、国・県等の補助事業等の活用も検討をするなど、より効果的・効率的な整備を検討していきます。

- 財源
- ・公共施設整備基金
 - ・財政調整基金
 - ・合併特例債
 - ・国および県の補助事業の活用

Q 現在の市役所・市民会館はどうなりますか？



現在の西脇市役所庁舎

現在の市役所・市民会館は老朽化が著しく、新庁舎等整備後の活用もできないため取り壊します。跡地は、公的な活用策を検討し、余剰地については民間活用、処分等の検討を進めます。